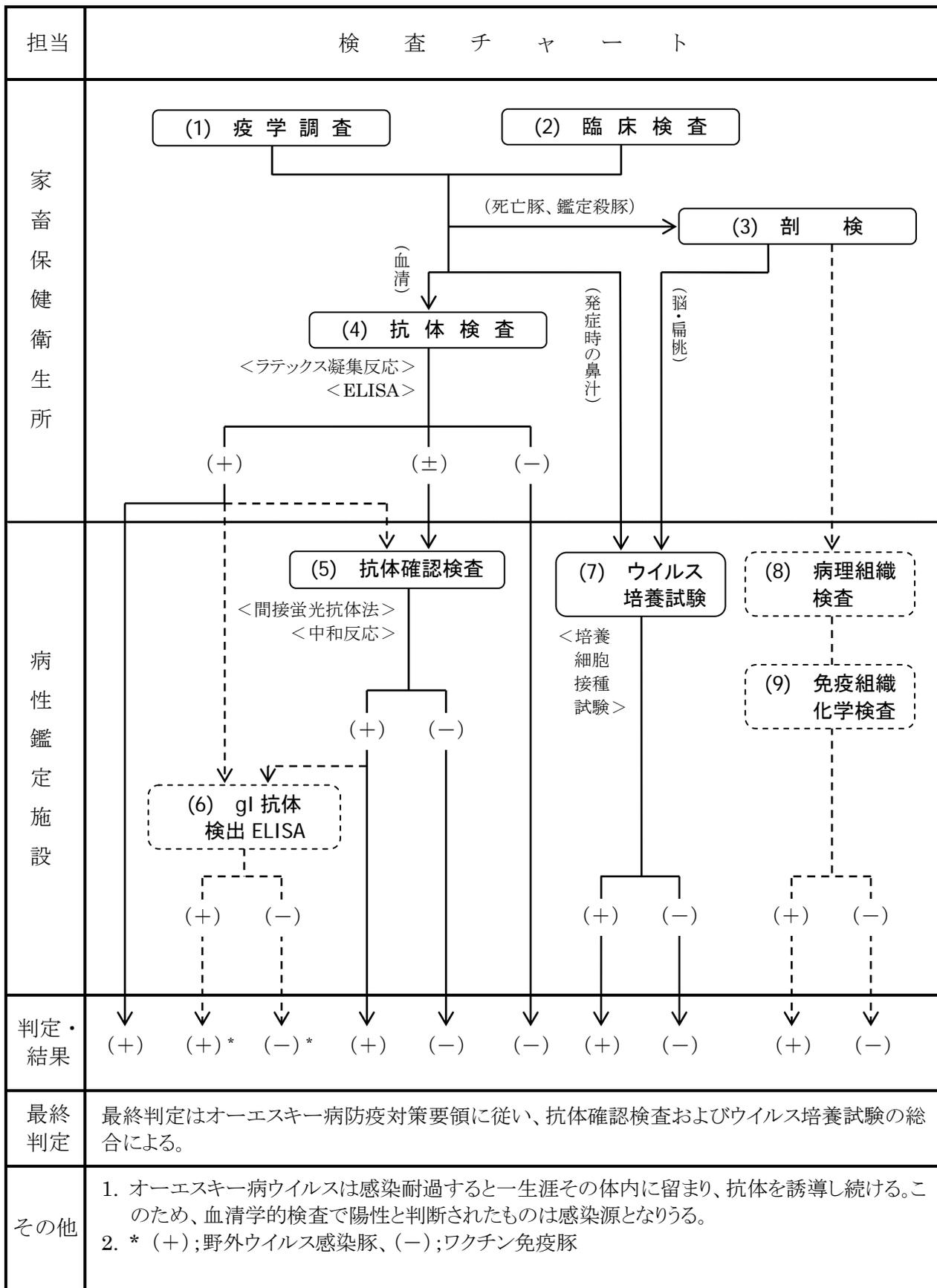


76 オーエスキー病〔届〕



## →類似疾病検査

- ① 70 豚コレラ    ② 79 豚繁殖・呼吸障害症候群 (PRRS)    ③ 75 トキソプラズマ病
- ④ 66 流行性脳炎 (日本脳炎)    ⑤ 86 豚パルボウイルス病    ⑥ 100 豚マイコプラズマ肺炎
- ⑦ 96 豚胸膜肺炎    ⑧ 102 ヘモフィルス・パラスイス感染症    ⑨ 72 レプトスピラ症

○ 病原体: オーエスキー病ウイルス; Aujeszky's disease virus [*Suid herpesvirus 1*, *Varicellovirus*, *Alphaherpesvirinae*, *Herpesviridae*]

### (1) 疫学調査

- ① 死流産の発生
- ② 神経症状は哺乳豚に好発し、生後 1 週間以内のものはほとんど全て死亡する。
- ③ オーエスキー病予防接種を受けている。
- ④ オーエスキー病防疫対策要領の地域分類を参照する。
- ⑤ 最近、豚を導入した。
- ⑥ 周囲に抗体陽性豚がいる。
- ⑦ 抗体陽性豚が輸送や飼養状況の悪化などによるストレスを受けている。

### (2) 臨床検査

- ① 哺乳豚の神経症状と死亡
- ② 発熱
- ③ 流死産
- ④ 不顕性感染や耐過して潜伏感染するため、特徴的な臨床症状はない。

### (3) 剖 検

肉眼的変化に乏しい。

### (4) 抗体検査 (ラテックス凝集反応、ELISA)

ラテックス凝集反応あるいは ELISA によるスクリーニングを行う。

### (5) 抗体確認検査 (間接蛍光抗体法、中和反応)

間接蛍光抗体法、中和反応を行う。いずれの検査も使用する細胞は (7) のウイルス培養試験と同様で、参照および指示ウイルスには国内初分離株の山形 S-81 株を使用することが望ましい。

### (6) gI 抗体検出 ELISA

本病防疫対策要領に基づく地域分類を参考に行う。なお、ワクチン抗体の保有を調べるためには、本 ELISA の単独使用ではなく (4) の抗体検査、特に通常の ELISA との併用が必要 (欠損マーカーのため)

### (7) ウイルス培養試験 (培養細胞接種試験)

使用細胞: 基本的に単層培養細胞なら動物種を問わないが、CPK 細胞 (豚腎細胞) を推奨。その他、PK15、Vero、MDBK、HmLu、MARC 145、MDCK、RK13 細胞等

接種材料: 発症時の扁桃、脳、鼻汁

培養方法: 37°C での培養

成績: CPE の確認

同定: 培養細胞中の特異抗原の確認

### (8) 病理組織検査

- ① 非化膿性脳脊髄炎や神経節炎がみられる。
- ② 必発でないが病変部の神経細胞、グリア細胞および内皮細胞に好塩基性および好酸性核内封入体が認められる。
- ③ 肝臓、扁桃、肺、脾臓、胎盤および副腎に核内封入体を伴う多発性の壊死巣がみられることがある。

### (9) 免疫組織化学検査

病変部にウイルス抗原を検出する。